

【概要】英作文の国際交流への活用とインターネット上の英語教材の活用

山口県立高森高等学校 英語科 赤松敦子

1人1台タブレット端末を日常的に使う機会が増え、生徒も使い方にかなり慣れてきました。WordやPower Pointで書いた英作文をGoogle Driveに保存して、外国の学校の先生方と共有し、生徒さんに紹介してもらうと、経費も時間もあまりかからず手軽に国際交流をすることができます。ゆっくり丁寧に書いた手書きの手紙やカードから感じられる温かみはコンピュータを介した交流では伝わりにくいかもしれませんが、絵や写真、動画なども一緒に簡単に送れる利点を生かして様々な作品を交換したり、リアルタイムでZoomなどを使って話したりすることなどで交流を深めることもできます。「いつか使うかもしれない（又は受験に必要な）英語表現を今は練習するだけ」よりも、「今、日本語では交流できない外国の人に自分のことや日本の文化などを伝えたいから、それに必要な表現を、教科書にあったものを思い出して、または自分で探して、すぐ使ってみる」ほうが、英語学習の動機付けとしてより強い影響があるのではないのでしょうか。

この学習指導用コンテンツ紹介では、前半に英語表現Ⅰ・Ⅱ（又は論理・表現Ⅰ・Ⅱ）の授業での国際交流を進めるための意義や生徒の感想に見られる効果、授業や課題での扱い方、交流相手校との相談内容などを紹介し、後半で実際に生徒に出したGoogle Classroomの課題を英語表現Ⅰ・Ⅱ向けと英語コミュニケーションⅠ向けに分けて紹介します。

後半の課題には、教科書の背景知識を学んだり、作文を書くための下準備をしたりする際に有用なインターネット上の英語サイト（ニュース・動画・公的機関やNPOのウェブサイトなど）の利用例を含めています。

著作権などの関係から、後半の課題例では、本校の生徒作品、交流相手校の生徒作品は掲載していません。なお、前半の説明に引用してある作品は生徒や交流校の許可を得て掲載しています。

後半の課題例にALTに許可を得て、生徒作品のよいところを褒めてもらった文章を含めています。生徒同士でも作品の感想を書くときに、まずよいところを褒めて、より良い作品にするために足すとよいところなどの助言を書くように指導しています。Self esteemを上げることも、このような自己表現活動の重要な役割ではないかと思えます。

取り上げています課題例は、参照していただくべき良い課題例というよりは、失敗のrecoveryの記述も含む、より良い課題の出し方を検討していただくための材料といったものです。生徒からのいろいろな質問に対応するために、後から書き足した部分もあり、説明の流れがスムーズでないところもあるかと思いますが、ご容赦ください。

国際交流を取り入れると、授業の準備に時間がかかりすぎると思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、少ない回数に絞ってALTに生徒作品の添削などを手伝ってもらっ

て実施すればそんなに準備に時間はかからないのではないのでしょうか。国際交流を授業に取り入れるための研修会などに参加した時に、音読練習や文法事項を使った応用例文発表なども Zoom で交流校と繋いで、一緒にするという実践も聞いたことがあります。国際交流は特別な活動ではなく、1人1台タブレット端末という便利な道具も使えるようになったので、もっと日常的に活かせる活動なのではないのでしょうか。

生徒の感想で一番多いのは「楽しかった」ということです。楽しいということが、いろいろな表現活動に積極的に参加しようという大きな動機になります。

他国の戦争が続き、日本でも貧困に苦しむ人が増えていても、軍事費が大幅に増加される話が出るという心配なことが多いご時勢ですが、より多くの方が国際交流活動を授業に取り入れてくださることで、草の根の平和構築活動が広がることにもつながることを願っております。

<学習指導用コンテンツ>

1 学び合い、共感し合い、感謝し合う国際交流

* 英語表現 I・II の課題や授業での国際交流についての説明

* 2021 山口県英語教育研究会の研究紀要に掲載した実践報告を短縮・一部変更

2 Google Classroom を活用した英語表現 I・II の課題例

3 Google Classroom を活用した英語コミュニケーション I の課題例